

■工学研究科 物質・化学系専攻 マテリアル工学分野

○ディプロマ・ポリシー

【博士前期課程】

物質・化学系専攻マテリアル工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に修士（工学）の学位を授与する。

1. 理工学の基礎としての数学、物理学および化学の知識に基づいて専門の学理を理解し応用することができる。
2. 材料の物理的・化学的性質、微細構造、材料合成・加工法、評価方法を理解できる。
3. 専門に関する学術・技術情報を収集し、分析・解析することができる。
4. 科学技術・工学と社会との関係を理解し、科学者・工学技術者として守るべき倫理を身に付けることができる。
5. 研究計画を立て、実験と理論を駆使して課題を解決し、国内外様々な場所における研究発表を通じて効果的なプレゼンテーションを行うことができる。
6. 外国語の研究論文や技術資料の調査、および自らの研究成果を外国語で発信することを通じて、外国語での専門的コミュニケーションを行うことができる。
7. 科学技術が社会や自然に及ぼす影響、および技術者が社会・環境に対して負う責任を理解し、地球的観点から物事を多面的に考えることができる。
8. 物質・材料に関する科学・工学の現状を理解し、将来のマテリアル工学のあり方を予測するとともに、豊かな人間性と広い視野を持って独創的方法で様々な課題に柔軟に対応することができる。

## 【博士後期課程】

物質・化学系専攻マテリアル工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に博士（工学）の学位を授与する。

1. 理工学の基礎としての数学、物理学および化学の知識に基づいて専門の学理を理解し応用すること、および科学技術を進展させることができる。
2. 材料の物理的・化学的性質、微細構造、材料合成・加工法、評価方法を理解し、それらを応用することができる。
3. 専門に関する学術・技術情報を収集し、詳細に分析・解析することができる。
4. 科学技術・工学と社会との関係、関連する規程等を理解し、科学者・工学技術者として守るべき倫理を身に付けることができる。
5. 研究計画を立て、実験と理論を駆使して様々な課題を解決し、国内外様々な場所における研究発表を通じて効果的で高度なプレゼンテーションを行うことができる。
6. 外国語の研究論文や技術資料の調査、および自らの研究成果を外国語で発信すること、海外の学会で活動することなどを通じて、外国語での高度な専門的コミュニケーションを行うことができる。
7. 科学技術が社会や自然に及ぼす影響、および技術者が社会・環境に対して負う責任を十分理解し、地球的観点から物事を多面的に考察し問題を解決することができる。
8. 物質・材料に関する科学・工学の現状を理解し、将来のマテリアル工学のあり方を的確に予測するとともに、豊かな人間性と広い視野を持って独創的方法で様々な課題に柔軟で適切に対応することができる。